

インタビュー

# 福祉はまちづくりの拠点になる

## 熊原 保

社会福祉法人優輝福祉会 理事長



くまはら・たもつ 1954年、広島県庄原市生まれ。大学卒業後、養護老人ホームに生活指導員として就職。91年、社会福祉法人総領福祉会の「高齢者福祉総合センター・ユーシャイン」所長に就任。一度辞職するが、2002年に「ともいきの里」の施設長として復職。10年、法人名を優輝福祉会に改称し、理事長に就任した。

**熊原** 高校3年生の春休みに、親友がオートバイの事故を起こして、重度障害を負ったんです。植物状態になつた彼の世話をしたくて、この道

にも取り上げられました。この本に紹介された記事の見出しは、「福祉先進国も学ぶ過疎の町の知恵」。知恵ニアイデアで福祉の可能性を広げ、地域の活性化にとりくまれています。まずは、熊原さんが福祉の道を志したきっかけを教えてください。

### 福祉との出会い

#### 編集部

熊原さんが理事長を務める社会福祉法人優輝福祉会では、広島県の里山で様々な福祉施設づくりを展開されています。2014年の新書大賞を受賞した、『里山資本主義』にも取り上げられました。この本に

受けろと先生にいわれて、駒澤大学の社会福祉専攻に入学しました。そこでいろいろな人とつながりを持つたことが大きかったです。ボランティアの集まりで、障害を抱える人たちとも会うようになりました。何も知らずに行きましたから、起ること全てがショックでした。

ほかにも、高齢者福祉や保育に興味がわいたり、ちょうどどリハビリの実践が始まつたころだったので、やつてみたいたとか。大学の4年間で、

に入りました。今でこそ社会福祉事業家なんて呼ばれることもあります

が、社会のための福祉じゃなくて、彼の世話がしたかつただけなんですよ。

それまでは、大学に行くつもりな

## 社会福祉法人優輝福社会の事業所と機能の一例

社会福祉法人の主な事業所は、下記の通り。小規模・多機能・柔軟対応の福祉をめざして、ひとつの拠点で様々なサービスを提供しています。また、空き家や地域の資源（温泉など）を利用した施設が多いことも特徴です。



共生型福祉施設「ゆうしゃいん庄原」



小規模多機能型居宅介護事業所「横山旅館」

### 庄原市

#### ■高齢者福祉総合センター ユーシャイン

特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスセンター、ホームヘルプセンター、居宅介護支援事業所、障害者訪問介護、配食サービス、障害者グループホーム

#### ■みとう温泉

高齢者デイサービス、障害者多機能型事業、ユニバーサルリビング、日中一時支援、軽食ヴァンヴェール、天然温泉

### 三次市

#### ■小規模多機能型居宅介護事業所 藤原別荘

通い・訪問・宿泊、バーベキューhaus、庭園茶室

#### ■ゆうしゃいん三次

就労継続支援 B型事業所、就労移行支援事業所、障害者グループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所、児童デイサービス

#### ■ラウンジ笑花(わっぱ)

相談支援事業所、障害者のグループホーム、カフェ・里山 SWEETS、福祉の店

## 高齢者福祉総合センター ユーシャイン (法人本部)

〒729-3713 広島県庄原市総領町中領家 476 TEL 0824-88-3000

FAX 0824-88-3030 <http://www.yuukifukushikai.com/index.html>

日本の福祉はこうあるべきじゃないか、こうありたいという考えがどんどん生まれてきたんです。

## ソフトケアとトータルケア

**編集部** それは、具体的にはどんな理想像だったのですか？

**熊原** 小規模・多機能・柔軟対応をめざす福祉です。もう40年近く、同じことをいっています（笑）。今でこそ小規模・多機能は当たり前になっていますが、私が大学を出て東城町（現庄原市）の養護老人ホームで働いていた昭和50年代は、大規模な老人ホームが次々に建設される時代でした。

そんな時代に、公民館で「老人ホームに入らない方法」なんて話をしていたんですよ。「自宅や地域で生き生き」ことが本望で、これを支えられるのは小規模・多機能・柔軟対応の福祉だと。私はこれを「ソフトケア」といっていますが。老人ホームで飯を食わせてもらひながら老人ホームの悪口をいつていたものだから、いろいろ文句はいわれましたけどね（笑）。

**編集部** 在宅介護を基本にするということでしょうか。

**熊原** 住み慣れた自宅や地域を生活の拠点にして、その人に合った介護サービスを利用してもらうのが一番です。それからもうひとつ、「トータルケア」という考えがあります。地域まるごとで福祉を実践することが大切だらうと。

**編集部** 優輝福祉会の施設は、特別養護老人ホームと障害者グループホームが同じ建物にあつたり、子どもとのための施設が隣接してしたり、支援を必要とする地域の人たちを総合

的にカバーする複合型の展開が多いですね。

**熊原** それだけでなく、例えば地

域の高齢者が食べきれなくて捨ててれた野菜を買い取ったり、管理しきれない里山の雑木を切ってストーブ用の薪<sup>まき</sup>にしたり、水質のいい地下水をくみ上げて商品化することなどもやっています。現場では、障害を持つ人たちが活躍していますよ。

**編集部** 地域の活性化や住民の交流にもつながりますね。

**熊原** この地域は、高齢・過疎化がすすむ、ひと昔前ならへき地といわれた場所です。でも、マイナスを背負った環境にこそ、忘れられていた宝物があるんです。野菜や薪もそうですし、空き家も改修すれば立派な福祉施設になります。

高齢者や障害者も宝物です。弱者と思われている方たち一人ひとりの中にこそ、光り輝くものがあると私は思っています。こうした里山の資源や人が輝けば、地域もきっと輝いていくでしょう。



## 職員も輝かなければ

**編集部** 優輝福祉社会の施設のユー  
シャインという名前は、「あなた

(ユー)が輝く(シャイン)」という  
意味がありますね。「輝く」という言  
葉は、熊原さんのテーマなのでしょ  
うか。

**熊原** そうですね。私も弱い人間だ  
から、挫折するとすぐにくすんでし  
まいそうになります。特に、福祉  
の仕事は精神的にも肉体的にもきつ  
くて、若い人たちもくすんで辞めて  
いつてしまう…。結局、社会福祉つ  
ていうのは、職員も輝かなければい  
けないんです。

世のため人のためといって、二コ  
リともせず黙々とやっていても続き  
ません。楽しくなければ、輝けない  
んです。だから「一日一笑」。笑顔  
は大切です。利用してくれる「あな  
た」が輝けば、私も輝く。これは、  
どんな仕事でも同じですね。

**編集部** 地域活性化にもつながる話  
ですが、優輝福祉社会はこの10年間で  
職員を200人も増やしたそうです

ね。就業の機会をつくること以上に、  
人材育成は大変だと思います。熊原  
さんが職員に求めること、伝えてい  
らっしゃることは何ですか？

**熊原** 福祉の現場は、「きつい・汚  
い・危険」の3Kではなく、「感心・  
感謝・感動」の3Kが学べる場所で  
す。利用者に教えてもらって、自分  
が成長できる職場だということです  
ね。そうやって成長していく中で、  
自分たちで判断して仕事をすすめて  
ほしい。

それから、一分野のスペシャリス  
トになることも大切ですが、それ  
だけでは伸びません。例えば私たち  
のレストランでは、保育士の資格を  
持った職員が、障害者の方といつ  
しょにスタッフとして働いていま  
す。こんなふうにオールマイティな  
かかわりを持つことが、その人の成  
長を促すのではないでしようか。

**編集部** それもトータルケアの考え  
につながりますね。では、職員に責  
任を持つ側の熊原さんたちの役割は  
何でしょうか。

## 里山が抱える課題と可能性

総務省が2012年におこなった「過疎地域等における集  
落の状況に関するアンケート調査」では、調査対象とな  
った801市町村の64,954集落(中山間地が60%を占める)  
のうち、約15%に当たる10,091集落が共同体としての機能  
を失いつつある「限界集落」と報告されました。

もともと働き口が少ない中山間地域では、担い手となる  
若者が減り、農地や山林の荒廃、空き家の増加、伝統文化  
の途絶など数多くの課題が生じています。また、今も里山  
にくらす住民、特に高齢者や障害者にとっては、医療・介  
護提供体制の弱体化や公共交通の利便性低下、商店・スー  
パーの閉鎖なども、日常生活を送る上で深刻な悩みになっ  
ています。

一方で、里山をうまく活用し、水や食料、エネルギーを  
自給自足して地域内で資源を循環させる経済システムをつ  
くろうとするとりくみが各地で動き出しています。優輝福  
祉社会の試みもそのひとつで、金融主導の“マネー資本主義”  
ではなく、地域の人と資源が主役となる“里山資本主義”  
の考え方はここから生まれました。



人口減少に伴い、増加傾向  
にある「空き家」。管理さ  
れていない老朽化した建物  
は、荒れ果てて倒壊する危  
険があり、再生も難しい

※1: 調査集落は、4,679,721世帯、人口11,887,715人。

※2: 前身は、1982年に発足した「過疎を逆手にとる会」。過疎という逆境をバネに、「輝く地域づくり」に挑戦するまちづくり研究グループ。

里山の木を障害者が加工し、熊原理事長が自ら書いた理念やメッセージを添えた作品やコースターなどを商品として販売しています



## 投げちゃあかん

**熊原** やる気のある人たちに場を提供することです。いつてしまえば、自分がやれないことはすぐに振っちゃうっていう(笑)。

を立ち上げました。うまくいかどうかは別として、ようやくという感じですね。逆手塾では、不利な条件をバネにしてコミュニティ・ビジネスの創出で輝く地域をつくろうと、ずっと提唱しています。

**編集部** 熊原さんは逆手塾のメンバーとして、30年も前から地域の資源を生かしたまちづくりを全国各地で訴えてきました。

**熊原** 最近、政府が地方再生を目的に、「まち・ひと・しごと創生本部」

**編集部** 優輝福祉会では実践を通して、福祉がその役割を担えることを証明されました。

**熊原** 福祉がポンプ役になって、地域を変えることはできます。医療福祉協会でも、ぜひそういうところに幅を広げてほしいと思います。

彼の写真を見ると、「投げちゃあかん」と。生きている間は、絶対にいろんなことをやらにやいかん。そういう信念はあります。私の柱は、今でも彼の存在なんですね。

## 熊原 保さんおすすめの本をプレゼント!

熊原さんと著者・和田芳治さんの  
メッセージ入り

『里山を食いものにしよう  
原価0円の暮らし』

和田芳治 著  
阪急コミュニケーションズ

本誌綴じ込みハガキにてご応募ください。

3名様

